

中口地域協力の新たなモデルについて¹

黒龍江大学北東アジア経済研究センター副主任・教授 郭力

要 旨

中国「東北振興政策」とロシア「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」の実施によって、中口間の地域協力がますます緊密化してきた。新しい協力モデルが求められる中で、本稿では中口地域協力における「傘型モデル」を提唱している。新たなモデルでは技術貿易の振興による産業面からの中口貿易地域協力の振興、中国東北地区とロシア極東地域間で進展する国際化における地方産業集積の命題、中国東北地区とロシア極東地域の協力を支点として周辺国家に影響を与える北東アジア協力の理念、相互補完の考えに基づいた協力方法などを提案し、このモデルが中口の地域資源を優れたものにする科学的な発展構想であることを提言する。

2004年及び2005年に中口両国首相の定期相互訪問の際に発表された共同声明では、ロシアシベリア・極東地域開発に対する中国企業の参入、中国の西部大開発と東北振興政策へのロシア企業の参加を促進していくことが強調された。このことは中口地域協力が新たな段階、すなわち中口貿易が単純な相互補完のみといった初期の段階から、ダイナミックな相互協力に向けた戦略段階へと転換したことを示している。2007年1月、ロシア政府が「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」を打ち出し、その後3カ月の間に大きな進展を遂げたが、このことは中口地域協りに新たなチャンスと発展のための空間を提供した。

それは同時に相互協力の一層の推進に向けた新たな協力モデルが求められることにもなった。

筆者は長期にわたって中口地域協力の研究を行ってきたが、その蓄積を活かし、中口協力の現状をふまえ、北東アジア地域協力の発展ビジョンに着眼し、中口地域協力をステップアップさせるための新しい中口協力モデル＝「傘型モデル」を提唱する。

1 新たな「傘型地域協力モデル」の根拠

ロシア国内には、かなり以前から東部地域開発の考えがあった。ロシアの著名な経済学者アベル・アガンベギャンが「ロシアの経済復興を実現させるために、シベリア地域と極東地域がヨーロッパ地域と均衡した発展を図る必要がある」と指摘した。また、他のロシア有識者も「シベリアと極東の振興がなければ、ロシアの未来はない」と示していた。ロシア経済がダイナミックな発展を図るためには、東部地域の開発を進めなければならないことは言うまでもない。

近年はロシア極東開発の方式にも根本的な変化が見られる。具体的に言えば、以前の「生産力を極東にシフトする」という方式からシベリアの「自立的な発展」方式に変わったことである。第2に、開発資本の出資者の多様化がある。かつてこの地域の投資は主に中央財政より拠出されたが、現在では中央政府、地方政府、企業、個人から投資が行われるほか、外資誘致にも力を入れている。3番目は東部地域経済の回復と発展のため、地元の潜在力を引き出すこと

である。ロシア東部開発戦略の転換において、現地の経済力のみで天然資源を開発しても真の発展は達成できないため、市場経済メカニズムに従い、国際的な協力・開発の道に進むべきであることを示している。

2007年2月1日、プーチン大統領の定期記者会見でロシア極東開発の重要性が再び強調された。その一週間後、プーチンはロシア極東とバイカル湖地域の発展問題を扱う国家委員会の発足を発表した。フラトコフ首相が委員会のトップをつとめ、「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」を担当する²。

プーチンの地域開発戦略は次のように概括できる。経済的支援を東部地域に傾斜すること、東部への移住を推進すること、地域合併プロジェクトを展開すること、政府主導の下、重点的に石油・天然ガスを開発することによって東部地域の発展を促進することである。

「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」にとって2007年は重要な意義を持つ。1月1日、クラスノヤルスク州、エヴェンキ自治区、タイムイル自治区が正式に合併し、

¹国家社会科学基金プロジェクト「中国東北和俄羅斯東部地区經貿合作新模式的区域効応研究」06BJY092

²俄新網（ノーヴォスチ）、<http://rusnews.cn/>、2007年2月1日

新たな行政主体となった。ロシアのメディアはこの合併が東部地域発展を牽引する「機関車」と例えた。2月12日、ロシア『Vzgliad』は、政府が現在のイルクーツク、アングアルスクとシレホフをシベリア地域の核都市へと発展させ、合併後の人口を100万人とする見込みである、と報道した。

このようなロシア史上前例のない大胆な措置は、プーチン政権の開発計画の具体案の一つにすぎない。2月27日、ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所は、「ロシア東部地域とアジアのエネルギー市場を連結するエネルギーインフラ施設の建設は北東アジア諸国と極東との間の主な協力方式の一つである」と指摘した³。そして「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」の国際協力についての方向性を示した。

ロシア政府は、2007年1月27日、「極東、プリヤート共和国、イルクーツク州およびチタ州の社会経済発展に関する国家委員会」設置の大統領令を公布した。この委員会の主な任務は、これらの地域の経済振興計画を立案して実施することである⁴。

2007年上半年期、ロシアは極東地域の投資・開発計画を打ち出し、その中には石油加工、製紙、冶金、木材、水産物加工などが含まれている。このことから、ロシア東部地域の新たな大開発構想の幕が正式に開かれたことが確認できる。

積極的に「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」を推進することは、経済的ファクターの影響を持ちながら、地縁的政治的ファクターの部分も有していると考えられる。具体的にいうと、アジア太平洋地域経済の急速な発展と資源に対する巨大な需要がロシアに莫大な商機を提供したことである。

また、ロシアとEUとの経済協力はすでに飽和状態になりつつあり、これから強く開拓協力を推進するには難度が高いことがある。さらに、ロシア西部地域の資源がかなり枯渇状況にあり、東部地域の資源を開発することによって補完する必要がある。また、ロシアは北東アジア地域協力の競争の中で主動的な地位を占めるために、北東アジア地域内にある東部地域の各種政策を調整していく必然性もある。

次に、中国に視点を転じてみよう。2003年、中国中央政

府は東北振興政策という地域経済発展戦略を提出した。同年には、「国务院東北地域等旧工業基地調整改造指導グループ弁公室」を設置、第1期振興プロジェクトとして100案件の実施を決定、合計で610億元を投資した。東北振興は、旧工業基地の振興のみならず、工業振興を中心に東北経済の全面的な振興を実現しようとするものである。

東北振興の推進には次のような3大戦略がある。全方位的な開放戦略、地域経済一体化戦略、そして人材戦略である⁵。外国投資による国営企業の合併・買収、産業のステップアップ、開放分野の拡大、税収政策、投資環境の向上という5つの重点分野において外資誘致のための優遇政策が公表され、東北の各省も独自の特別優遇政策を開始した。

ここ数年来、東北振興政策により、各省は対外開放による経済交流の促進を行い、とりわけ周辺国家との経済技術協力を強化してきた。東北三省とロシアとの経済技術協力により東北振興の促進のみならず、ロシア東部地域の開発も促進したことは十分に理解できることである。

黒龍江省とロシアとの輸出入総額は2003年で29.5億ドル（前年比26.8%増）、2004年で38.2億（同29.3%増）、2005年では56.7億（同48.4%増）、2006年は66.7億ドル（同19.2%増）となっている⁶。

黒龍江省が2004年に打ち出した対口協力ステップアップ戦略の目標では、2007年の対口貿易額は2004年の倍の70億ドル超であり、2017年には更に倍増の140億ドル超となっている。この目標を実現するために、黒龍江省では3年以内に5カ所の対口輸出加工基地を設立して、50企業の対口輸出向け生産能力を向上させることで、対口輸出総額に占める加工業の比率を現在の30%から60%へと向上させることとしている⁷。

東北振興の長期計画では、黒龍江省に6大工業基地とハルビン・大慶・チチハル工業回廊を開発することとなっている。これらの計画が実施されれば、ロシア市場向けの良質かつ廉価な製品の輸出を拡大することができ、貿易額を持続的に増加させると同時に、隣接するロシアの対中貿易の大幅増を促進することができる。

2005年に黒龍江省は対口経済貿易・科学技術協力ステップアップ戦略を策定した。2006年初頭にはハルビンで対口協力産業パークの建設が始まった。これは中国最初のロシア市場向け科学技術協力の礎である。同パークの総面積は

³ 俄新網（ノーヴォスチ、ハバロフスク） <http://rusnews.cn/>、2007年2月27日

⁴ 俄新網（ノーヴォスチ、モスクワ）2007年3月2日

⁵ 寧一ほか『東北昨整』当代世界出版社、2004年5月、215ページ

⁶ 黒龍江省商務庁計画処2003～2006年統計資料より

⁷ 黒龍江省商務庁網、2004年3月2日

239.5万平方メートルで、全国のロシア市場向けの大企業が入居し、新素材、電子情報、バイオ技術、新エネルギー、高効率・省エネ、環境保護、医薬、農業などの産業を重点的に発展させる。計画によれば、2006年6月に企業の入居・駐在を受け入れ始め、2006年末には30プロジェクトを誘致する規模になった⁸。現在、ロシア科学アカデミー極東支部は年間を通じてハルビンの技術マーケットで自らの科学技術の成果を展示している。すでに展示した科学技術の成果は40余案件であり、化学、金属加工、農業、海洋開発などが含まれている。

吉林省では、2002年から対口単独プロジェクト基金を設立し、毎年200万元を拠出、主に輸出奨励と大型展示商談会の助成に用いてきた。2004年と2005年には吉林省はブラゴベシチェンスクとイルクーツクでそれぞれ「吉林省・沿海地方投資貿易商談会」と「吉林・東シベリア投資貿易商談会」を開催、展示会参加者は380余人に達した。吉林省によるロシア極東・シベリアに対する経済貿易協力において、その規模の大きさ、レベルの高さはともに記録的なものとなった⁹。

ロシア政府は、前後して、琿春と隣接する沿海地方内で、ナホトカやブラゴベシチェンスク同様の自由貿易特区を設立し、クラスキノ国際商業貿易ビルを作り、一連の優遇政策を実施した。吉林省も延辺州の中口朝国境地帯における経済特区の建設を推進し、琿春国境地区の物流・貿易の集荷、輸出入加工と国際商業貿易・観光などの機能を絶えず整備してきた。

中口の琿春・ハサン地区では国境を跨ぐ経済協力区の建設が加速しており、中国側は国境の口岸、道路、鉄道、橋などへの資本投入も拡大した。現在は「琿春国境経済合作区」と協力関係を結び、開放的で相互に連動する体制を形成し、吉林省における対口経済貿易の発展を促進できるように、極東地域で経済特区を設立することをロシア側に提案している¹⁰。

2006年には長春でシベリア・中国合併技術パークが開設された。これについて、V.トロコンスキー・ノヴォシビルスク州知事は、長春で開設された技術パークは中国社会科学院とロシア科学アカデミー・シベリア支部がともに協力して実施したプロジェクトであると述べた¹¹。

遼寧省とノヴォシビルスク州でも共同で中口テクノパー

クを建設するという計画が行われており、このパークは「遼寧パーク」と称され、遼寧省のハイテク産業発展システムに採り入れられるであろう。新素材、設備機器、新エネルギー、環境、バイオ技術、近代的薬物製剤などの科学研究分野において、良い協力機会となる可能性が感じられる。

大連では対口協力ハイテク開発区が設立された。遼寧省はロシア市場の開拓を今後の対外開放の重要な任務とし、ロシアを「走出去（対外進出）」戦略の最初の対象国としている。また、同時に対口輸出入・投資総額、工程請負・労務輸出総額の年間伸び率が全省の平均水準を上回るという高い目標を設定した。この目標設定は遼寧省にとって機会を逃さず、対口経済貿易協力を推進するための適切な措置である。また、これはロシアとの経済協力によって遼寧省の経済振興を加速させるための重要な措置でもある。

S.ミロノフ・ロシア上院（連邦院）議長は、共同歩調が取れるようなロシア極東地域と中国東北地区の発展計画を策定すべきであることを強調し、同時にロシア連邦院と中国全人代がロシア極東と中国東北地区間の共同プロジェクトを支持することが、この両地域で行う二国間協力の促進に貢献できるはずであると指摘した¹²。

以上によって、中国東北地区とロシア極東地域の協力を全面的に推進していくための良好な基礎と条件がすでに整えられつつあることが判る。また、相互協力の形式と内容が明らかに変化し、絶えずステップアップすることに伴い、新たな協力モデル形成の必然性が導かれるのである。

2 「傘型地域協力モデル」の提起

中口地域経済協力の規模は徐々に増大し、分野も絶えず拡大している。同時に協力レベルも向上し、協力チャネルも次第に増えることに伴って、旧来の協力モデルによって生じた制約を打破することが切実に求められる。新モデルの形成は歴史の発展の中で必然的なものとなろう。このため、筆者は「傘型」という中国東北とロシア極東との地域協力の新モデルを提起する。

新モデルとは次のようなものである。すなわち、中国東北地区とロシア東部地域は技術・貿易の協力を進展させると共に、それを先導にして双方の産業協力を推進していかなければならない。そのため、中口における経済分野の相互連携を深め、最も優れた資源配置の協力効果を達成する。

⁸ 「哈爾濱專辟産業園區推進対俄戰略昇級」新華網、2005年5月19日

⁹ 「吉林与俄羅斯經貿概況」中俄經貿協力網、2005年9月2日

¹⁰ 『中俄琿春 哈桑跨国（边境）經濟協力区規劃研究』、<http://www.crc.mofcom.gov.cn>、2005年8月19日

¹¹ 「西伯利亞 中国合資技術園在中国長春開設」俄新網（ノヴォスチ、新シベリア）<http://rusnews.cn/>、2006年9月25日

¹² 「俄羅斯呼吁加強遠東与中国東北地区的協力」俄新網（ノヴォスチ）<http://rusnews.cn/>、2006年9月18日

そして、中口地域発展を中心に、北東アジアへの波及を通して、持続的なリンケージ効果を形成させ、北東アジア地域協力における中口の主導的地位を確立させる。

技術貿易を核とする産業協力の強力な展開を通じて、地域の国際的産業集積が形成され、北東アジア地域協力をテコにし、産業協力の集中化により、新しい経済の成長極が発達し、この成長極の地域的効果が「傘型」として現れる。

その地域的効果は次のようなものである。すなわち、北東アジアの中心に位置する中国東北とロシア東部地域の知性的優位性を利用して、両国の産業協力という優位性を傘の柄とするとともに、北東アジア地域全体に輻射することを傘の骨にあたる部分として、エネルギー、科学技術、物流、人材など分野において、地域内各地区の経済協力を連結することにより、北東アジア地域協力の新モデルとして「傘型」モデルが形成されるものと考えられる。

新モデルの内容としては、技術貿易を核とする産業協力を発展させて、中国東北とロシア東部地域全体の協力戦略のレベルアップを図る突破口とし、貿易協力拡大と産業発展を有機的に結合させ、地域経済発展の全面的な戦略を構築するものである。具体的には、技術性の高い資源加工業、第2次加工を主とする農産品加工業を強気に展開し、ハイテクを活用したベンチャー産業を振興し、機械製造業分野での全面協力を強化させるものである。

産業協力を核として、中口国境地域の貿易を推進し、高レベルかつ規範化した国際ルール制定につなげることが必要である。また、中口地域協力の発展方向がボーダーレスな地域国際化産業集積でなければならないことを明確にする。これについては産業集積の理論と実践において新たな試行錯誤が必要であろう。

重点として、伝統的な国境における経済主体の区別や地域主義などの問題を解決し、中口国境地域に対して自然、人材、財政、科学技術資源などの再配置を行うことによって、地域協力における最大利益を獲得し、更により効果に達することが期待される。

地域経済発展の原動力となる中口間地域国際化産業集積の特徴は、資源と技術の相互補完型、ハイテク技術主導型、専門的人材の共同享受型、経済効果と利益のウィンウィン型といったそれぞれの要素が中口経済技術協力の必然的方向性となることである。

実践面における新モデルの意義としては、中口両国の地域経済貿易の協力と発展を通して、北東アジア地域協力の中に占める中口の地位とその役割を改めて確立すること。東北振興はロシアと切り離してはならず、ロシア東部地域の開発も中国と切り離してはならない。経済の相互

補完と共同発展は中口両国協力の重要な内容であること。

貨物貿易を中心とする中口地域経済貿易協力の現状から、多分野、多形式の全方位的な協力を求め、ロシアに対する経済貿易戦略のレベルアップを実現すること。過去に形成され、民間で認可された貿易形式を規範化して、ロシアのWTO加盟段階に、国境貿易の秩序を整備し、なるべく早い時期に国際貿易ルールとの整合性を図ることである。

このモデルの理論的意義としては更に、国際地域協力が国全体を単位とするという経験と理論を翻すことである。また、国際地域ブロックの主導国が先進国であるという概念を覆すことである。さらに、両国の相対的に遅れた分野の地域協力において、後発者の優位性を地域ブロック形成の主力に育成することによって、地域ブロック化に向けた理論構成を充実させることであると言える。

3 「傘型地域協力モデル」の解釈

本論では、技術貿易を核とした産業協力を発展させることが中口地域協力の振興を促進できると提起した。中国東北とロシア東部地域の技術貿易交流を進展させ、ロシアの先進的な技術を導入することで、技術分野の優位性を確立し、さらに技術のレベルアップによって新たな投資機会を生み出して、新産業を創出し、循環的に新たな優位性を確立していく。天然資源を利用する産業の相対的優位性とは異なり、未来型の技術産業は創造されるものでなければならない。

新技術は往々にして国際的にも重要な新産業の基礎となる。戦略的な技術と産業を進展させ、産業の質を向上することで相対的な優位性を高める。新モデルは、これまでの中口地域経済協力がバーター貿易であった狭隘な範囲の協力方式を覆し、双方による協力を技術貿易と産業協力の段階に発展させることによって、生産資源の効果的配置と生産効率の向上をもたらす。

また、新モデルは中国東北とロシア東部地域において、地域的な国際化産業集積というテーマを提起した。集積戦略は国内外の地域経済発展の中で、ハイテク産業や既存産業においてもかなり大きな成功を収めた。ハイテク産業の集積は、例えばアメリカ・シリコンバレー、インド・バンガロール地区、イスラエル・テルアビブ、イギリス・ケンブリッジのサイエンスパーク、フランス・ソフィアアンティポリスなどがある。

既存産業の集積は、イタリアのエミリア - ロマニャ地区や浙江嵯州のネクタイ、海寧の皮製洋服などがある。一般資本と技術が結びついた形の産業集積に関しては、日本の

東京都大田区、ドイツ南部のバーデン - ヴュルテンベルクなどの例がある。

新モデルのテーマとは、従来の産業集積に対する概念がある上で、地域のボーダーを突破し、中口地域産業の共同の発展によって新しい地方的な国際化産業集積を形成させようとするものである。

このテーマを提起するマクロ的背景は、国境地域を跨ぐ産業集積、経済のグローバル化と地域ブロック化の発展方向にある。また、ミクロ的には、資源相互補完性による経済的効果と利益の獲得を推進するため、国際地域間の多様な産業チェーンにおける協力の実現を加速化させ、双方の地域経済の急速な発展を促進することである。

新モデルは中国東北とロシア東部の地域協力を中心に、周辺地域に効果を与えるという北東アジア地域協力のあり方を提起した。現在、北東アジア各国はそれぞれ地域経済協力の新モデルを模索している。

韓国が「東北亜中心国家」という概念を提唱し、仁川を中心とする北東アジア物流センターを建設しようとした¹³。日本では、1980年代末に自らをリーダーとする北東アジア地域の「雁行型協力モデル」が提唱された¹⁴。ロシアは「極東ザバイカル地域長期発展プログラム」を制定し、東部地域とその周辺国家との経済協力を通して、北東アジア地域協力の役割を發揮させようとした。この段階で、中国は東北振興政策を策定し、ロシア東部地域との経済技術協力を強化しようとしている。

中口地域協力の潜在力を発掘し、地域的な国際化産業集積を形成する。その地域的効果は北東アジア地域協力を促進する原動力である。また、この地域的効果の実現は、日本をリーダーとする北東アジア地域協力モデルを変え、「傘型」新モデルを形成させるものである。このモデルが形成させる理論的根拠となるものは、中国の対外開放政策とロシア東部地域の開発戦略であり、国際的な地域経済発展の新たな構造と中口両国政府の積極的な姿勢から来ている。2006年のロシアにおける「チャイナイヤー」と2007年の中国における「ロシアイヤー」は、この新モデルの樹立に堅実かつ客観的な基礎を提供したのである。

新モデルは、相互補完に基づく両国のシンクロナイズした協力が中口地域の優れた資源配置を実現させる科学的発展観であると提起した。中口地域協力の新モデルではエネルギー、科学技術、労働力資源及び軽工業分野の相互補完を基礎としている。協力を通じて絶対的な優位性の相互補

完が実現できるかどうか、また、資源配置を優越化することができるかどうかは、双方が相互補完協力の条件を備えているか否かによって決定される。

科学的で発展的な理念は、中口地域経済協力発展の目標を輸出入総額や投資額といった単純な指標のみならず、総合的な目標として設定すべきであると考えられる。例えば中口国境地域の経済発展レベルや、国民生活水準の向上の程度、文化的水準及び社会環境の安定などの目標を設定する。

近隣地域の友好関係は両国の長期的協力を可能とする基本条件である。具体的に、中口間の相互信頼、尊重と理解、そして責任感と自律性の面で示される。この理念は相互協力の核で、また出発点であり、同時に地域資源の配置を優越化するのに必要な条件でもある。

4 「傘型地域協力モデル」の形成条件について

4-1 エネルギー協力

中国東北はロシアのシベリア・極東の二大石油・ガス田と背中合わせの位置関係にあり、シベリア石油・ガス田までの距離も遠くない。したがって、中国東北はこの3つのオイル・ガス田から石油天然ガスの供給が可能である。2006年のロシアイヤーでは、中口双方がエネルギー協力の重点を示した。

- ▶ タイシエツト・ナホトカ間パイプラインからの中国向け支線の建設についての一層の協力を明確にし、中国側がロシア側に4億ドルの貸付金を提供し、専門プロジェクト会社を成立。ロシアは中国に年間3,000万トンの原油輸出の計画を策定し2008年11月に竣工する。
- ▶ 2本の天然ガスパイプライン建設計画。1本はシベリアから黒龍江まで、さらに1本は西シベリアから新疆アルタイ山を経て中国の輪南まで続くもので、毎年中国に600~800億m³の天然ガスを輸送する。
- ▶ 中口は合併企業を設立し石油協力を展開するという基本的合意に至った。
- ▶ 現行の鉄道車両による中国へのガス輸送の規模を拡大し、2006年には1,500万トン達成する。
- ▶ 中口間の電力協力。

2006~08年の第1段階において、国境地帯の中国側境内で送電ラインプロジェクトを建設し、ロシア極東電力網から黒龍江省電力網に送電、送電工率を600~720メガワット、年間送電量を36~43億キロワットとする。

¹³ 「韓国之窗」『盧武鉉就任講演』2003年3月25日

¹⁴ 尤安山「東亞經濟多邊協力の發展趨勢」『世界經濟研究』2004年第四期、15ページ

2008～10年の第2段階において、±500キロボルト直流送電線を建設し、ロシア極東電力網から遼寧省電力網に送電、送電工率を3,000メガワット、年間送電量を165～180億キロワットとする。

2010～15年の第3段階において、±800キロワット直流送電線を建設し、ロシア極東電力網或いは東シベリアから中国東北電力網或いは華北地区に送電する。送電工率を6,400メガワット、年間送電量は380億キロワットとする¹⁵。

ロシアの専門家は、今後5～10年間でロシアが中国エネルギー市場の重要なパートナーになり、15年後にはロシアが中国最大のエネルギー供給元になるだろうと予測し、これが中口エネルギー協力の潜在性であり発展の方向性であると具体的に説明した。中口エネルギー協力は、中国東北とロシア東部地域の経済振興を支えるだけでなく、同時に、その周辺の日本、韓国にも大きな影響をもたらし、北東アジアエネルギー協力の新たな構造が構築されるであろう。

4-2 科学技術協力

中口地域の科学技術協力は、中国の東北振興とロシアの東部地域開発がキーポイントで、協力戦略のステップアップのために必然的な要素となる。

ロシア東部地域の科学技術力は充実し、潜在力は大きい。ロシアアカデミー・シベリア分院は約1,500の特許を取得しており、ロシアアカデミーの有する特許の約50%を占めている。ロシア側は、中国が実施している東北旧工業基地振興戦略に対して大きな興味を示し、一部技術改造プロジェクトへの協力と新規プロジェクト研究への参加を希望している。その目的は、科学技術協力を通じてロシアの科学研究の成果、特に中国の半製品とハイテク製品への技術移転を拡大しようとするところにある。

中口地域の科学技術協力の重点分野はエネルギーであり、具体的に石油、天然ガス、電力、再生可能エネルギー、鉱山資源、森林資源、水資源、新素材、機械電子、航空・宇宙、バイオ、情報通信技術、農業科学技術などが含まれている。

両地域の協力を促進するため、東北地区では国家級ハイテク開発区が7カ所建設され、黒龍江省には「工業技術協力センター」、「農業技術協力センター」、「ハルビン国際協

力ビル」という中口科学技術協力、産業化のためのセンターも建設された。ロシア東部地域は約20の工業科学技術パークを建設する予定で、中口双方が共同でモスクワに「友好科学技術パーク」を建設する計画もある¹⁶。

中口間の科学技術協力の枠組みは、ロシアのハイレベルな科学技術の優位性を活用することである。中国における科学技術市場の巨大な需要と良好な市場メカニズムによる保障は、ロシアのハイテクを導入し、吸収した上で新たな創造を行うことで、新産業の育成と旧工業基地の改造が行われ、産業優位性を発揮する源となり、北東アジア地域内の科学技術のピークポイントとして地域内に産業集積が形成される中で、科学技術の中心としての重要な役割を果たすことになる。

4-3 物流協力

国際地域協力において、物流は中口地域協力を加速させるための促進剤である。例えば国連開発計画（UNDP）が提唱した大図們江地域協力開発プロジェクトの場合、その国際協力開発の中核地域は吉林省延辺朝鮮族自治州の琿春市とロシアのハサン地域である。この地域は3カ国が近接し、5カ国が関わる北東アジアの黄金デルタである。琿春には中口を結ぶ道路や鉄道口岸や中朝にまたがる圈河、沙坨子口岸もあり、全国でも有数の国境地帯が形成されている。

琿春からロシア、北朝鮮、韓国、日本までの陸上・海上輸送ルートが相次いで開設された。琿春 - ウラジオストク - 秋田間の定期コンテナルート、琿春 - ザルピノ - 東草間といった海上フェリールートに続き、琿春 - ザルピノ - 新潟、琿春 - ザルピノ - 伊予三島といった海上ルートも準備されている¹⁷。琿春地区では中口互市貿易区が建設されており、マハリノから琿春までの鉄道軌道はすでに結ばれており、試運転が行われている。

ロシアはハサン・図們江自由経済区の建設計画を立てている。プロジェクトの進展に伴って、大図們江地域では鉄道による港湾までの輸送と国際道路輸送の実現、中口国際経済協力区の設立、琿春・長嶺子対口口岸の整備を行っている¹⁸。それらによって、中口地域協力の規模と役割は一層拡大され、地域間の経済発展の相互影響作用と補完能力は増強されるだろう。琿春国際物流センター、北東アジア鉄道国際運送、合作区の保税倉庫・北東アジア国際商品貿

¹⁵ 「中俄確定電力協力“三步走”戰略」<http://commerce.northeast.cn>、2006年12月30日

¹⁶ 「馬頌德談中俄科技協力」『新華網』、2006年11月17日

¹⁷ 金江水「在房川」『吉林日報』2006年5月18日

¹⁸ 王世才「加強長春中心城市和琿春口岸城市建設的幾點建議」、吉林省社会科学院ホームページ（www.jilass.com.cn）、2006年10月20日

易センターを中心とする高度に整備された国際物流サービスネットワークの形成に向けて取組みが行われている。

そのほか、中口地域の林業、軽工業、人材協力もまた十分な潜在力を持っていると考えられる。また、ハルビン - 大慶 - チチハル工業回廊の形成、黒河 - ブラゴヴェシスチェンスク間の橋梁建設などのプロジェクトは、地域協力の優位性が顕著に発揮され、地域協力による利益と効果も大きい。近年発展してきた地域協力の実践は、中口協力における新モデル理論を充実させ、より完成された方向に近づけている。

中国東北振興とロシア東部地区開発は両国が地域経済発展を促進する共同目標として、中口地域協力のために堅固な基礎的条件を提供している。「傘型」の新モデルは地域協力を発展させ、役割を発揮するために広大な空間を提供する。

しかし、この新モデルをより現実的なものに転化することは未だ困難である。まず、東北三省が一つの総体として中口地域協力に向けてどのように計画し、地域資源を合理的に配置することをどのように進めるかという課題がある。そして、中国東北振興とロシア東部地区開発の特別な

政策をいかに活用し、地方の国際化の特徴を発揮できるかである。また、技術・貿易を核とする協力をいかに地域国際化産業集積の高次な協力にしていくかということである。

中国東北とロシア東部の地域協力は、現実的歴史的にも中口協力のそのものを超える意義があると考えられる。この協力は中国とロシアによる北東アジア地域協力への参画、地域協力の主要な役割を果たし、北東アジアの地域協力を更なる発展に導くものと考えられる。

[中国語原稿をERINAにて翻訳]

筆者略歴

郭力

1955年4月生まれ

黒龍江大学北東アジア経済研究センター副主任

黒龍江大学経済・経営学（MBA）学院教授

メールアドレス：guoli1688@163.com

Tel：13115553388、86609413

住所：〒150080 哈爾濱市南崗区学府路74号161信箱

*A New Model for Sino-Russian Regional Cooperation*¹

GUO Li, Deputy Director and Professor,
Northeast Asia Economic Research Center, Heilongjiang University

Abstract

Through the implementation of China's "Revitalize the Northeast Policy" and Russia's "Far East and Zabaykal Long-term Development Program", Sino-Russian regional cooperation has become all the closer. Amid calls for a new cooperation model, this document advocates an "Umbrella Model" in Sino-Russian regional cooperation. In the new model, the following are proposed; the promotion from the area of industry of Sino-Russian regional cooperation in trade via the promotion of technological trade; the proposition of a regional concentration of industry within the internationalization which is progressing between China's Northeast region and Russia's Far East; a philosophy of Northeast Asian cooperation which influences the surrounding nations, with China's Northeast region and Russia's Far East as the focal point; and cooperation methods based upon the idea of mutual complementarity. This model recommends there being a scientific development structure which brings the excellence of Sino-Russian regional resources into play.

In the joint communiqués issued at the scheduled reciprocal visits by the leaders of China and Russia in 2004 and 2005, the entry of Chinese businesses into the development of Russia's Far East and Siberia, and the urging of participation by Russian businesses in China's Western Development Initiative and the Revitalization of the Northeast were emphasized. This shows that we have moved to a new stage-in others words, from an initial stage of Sino-Russian trade being simply mutually complementary, to a strategic phase heading toward a dynamic mutual cooperation. In January 2007 the Russian government laid out the "Far East and Zabaykal Long-term Development Program", and in the following three months made a great deal of progress, and this provided room for development and a fresh opportunity for Sino-Russian regional cooperation. At the same time this also brought a demand for a new cooperation model to promote a further level of mutual cooperation.

The author has undertaken research into Sino-Russian regional cooperation for many years, and making full use of what has been built up thus far, taking the existing situation of Sino-Russian cooperation into consideration and giving attention to the vision for the development of cooperation in the Northeast Asian region, advocates the Sino-Russian cooperation model of the "Umbrella Model" to raise the level of Sino-Russian regional cooperation.

¹Source for this paper: National Social Sciences Fund Project "Zhongguo Dongbei he Eluosi Dongbu Diqu Jingmao Hezuo Xin Moshi de Quyu Xiaoying Yanjiu" 06BJY092 (in Chinese)

("Research into the Regional Effects of a New Model of Cooperation in Regional Trade between China's Northeast and Eastern Russia")